

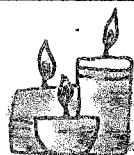
2017年  
11月号  
NO.0063

# カトリック笹丘教会 教会 ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1  
☎761-4504 F761-4524  
広報委員会

福岡教区今年度の目標・・・「いつくしみから踏み出す第一歩」  
小教区今年度のテーマ・・・「やってみよう 私にできることを」

## 日本社会における宣教



主任司祭 遠山満

先日、思いがけなく、ヨーロッパ巡礼に同行司祭として参加する機会を頂きました。巡礼先は、ルルド、サンチャゴ・デ・コンポステーラ、ファティマで、三年前、ドワイヤ神父様や他の幾人かの笹丘教会の皆さんと巡礼したコースとほぼ同じコースを周りました。見るもので、それほど目新しいものはありませんでしたが、一つ新鮮に感じたことは、旅先のあちらこちらの巡礼の先々で、様々な世代の老若男女と行きかったことです。特に、若者や子供、若い家族連れなどが通りのあちらこちらで見られ、活気に溢れていたのは印象的でした。

海外に行きますと、日本の社会を外から見る事が出来ますが、現在の日本の社会は、言うまでもなく、少子高齢化社会です。このような私達の社会の中でイエス様の教えを広めるといふ時、どのような心掛けが必要なのでしょう。今の私達は、旧約のアブラハムのようなのです。年老いて、子供が与えられていなかったアブラハムのような状態、希望のない状態ではないでしょうか。主なる神様は、このようなアブラハムにイサクを授け、約束された通り、空の星のように涙の砂のように、多くの子孫を残して下さいました。主なる神様は、希望のないところに、希望を与えて下さる方であることを信じて、神様が与えられる希望を宣べ伝えて参りましょう。

希望という時、私は一つのエピソードを思い出します。それは、私に洗礼を授けて下さった神父様の金祝、つまり司祭叙階50周年のお祝いの席での事です。この神父様が、お祝いの席で仰いました。「私は、今、人生の黄昏の時を迎えています」と。それに対して、もう少し若手の神父様が仰いました。「神父様は、この世的な目から見れば、人生の黄昏を迎えていらっしゃるようですが、永遠の命から見れば、人生の曙を迎えようとしておられます」と。老いは、永遠の命から見れば、人生の曙。なんと素晴らしい知らせでしょうか。そのように考えると、老いの苦しみは、産みの苦しみとも言えます。赤ちゃんがこの世に生まれる時、お父さん、お母さんが笑顔で迎えてくれるように、私達が永遠の命に完全に生まれる時、イエス様、マリア様、他の多くの方々が、私達を笑顔で迎えてくれます。その日を目指して、希望をもって前進して参りましょう。

## カトリック笹丘教会 拡大信者会議事録

開催日時：2017年11月5日（日）11：35～13：00

開催場所：信徒会館 司会：川原 書記：牧山

† 始めの祈り—主の祈り

### 1. 今年度小教区活動の振り返り

- ・教区目標についての上半期の取り組みはまだ十分ではないので、今後も取り組んでいく。
- ・教区の目標は1月～12月で区切られているのに対し、小教区は4月～3月を区切りとしているので、目標については今後教区の区切りに合わせるようにしたい。取り組んでいるテーマは、短期間で成果が得られるような内容ではなく、長期に亘って取り組んでいく必要があると考えている。
- ・大人が洗礼準備のための勉強をしている間、子供を預かり、日曜学校の子供たちと一緒に勉強したりした。

### 2. 今後の予定

- クリスマス飾り付け・・・12/2（土）10時～
- クリスマスバザー・・・12/3（日）（バザー終了後信徒会館の掃除）
- 教会学校クリスマス会・・・12/10（日）10時ミサ後 信徒会館ホールにて
- 大掃除・・・・・・・・・・・・12/10（日）10時のミサ後 ※信徒会館ホールを除く
- 黙想会・・・・・・・・・・・・12/17（日）
- 成人式ミサ・・・・・・・・・・・・1/7（日）
- クリスマス飾り片付け・・・1/14（日）
- 新年会・・・・・・・・・・・・1/21（日）

### 3. その他

- ・教会建設費借入金返済目的のバザーは、今年度で目途がつきそうな状況。今後は長期メンテナンス計画を視野に、新たな積み立てが必要かどうかを検討していく。
- ・倒れそうな桜の木の伐採をする必要がある。一応すべての桜の木を樹木医に見てもらい、伐採が必要な場合は信徒で行うのは危険なので、業者に相談する。

† 終わりの祈り—アヴェ・マリアの祈り

## 秋の巡礼 2017.10.21 土曜 くもり時々小雨

空模様が心配な天気でした。宗像黙想の家の敷地内にあるザビエル聖堂へ現地集合。総勢23名、ミサに預かり、鬱蒼とした敷地内で、十字架の道行きをしました。



ザビエル聖堂でミサを受けました



## 神学院祭 2017年11月3日金曜 晴れ

城南区松山にある大神学校で、以前の「召命の集い」である学院祭が行われました。福岡近隣地区の教会から貸切バスなどで多数集まりました。ミサは運動場で行われました。



運動場でのミサ



笹丘からはカレーと綿菓子を準備しました。



「神学院ツアー」担当の神学生が案内してくれました。「この食事が美味しくて5k太りました」の言葉が聞かれました。



「ホールへ神学生の隣の部屋です」子どもたちが神学生にサインを求めています。

10月中旬、ステラコーポレーションという旅行社主催の「江戸のキリシタン殉教者史跡を巡る一日巡礼」というツアーに参加するために東京へ行った。イエズス会の外川神父様の同行と東大の五野井名誉教授の解説付き（まるで大学の講義のよう！）という、キリスト教徒としてはなんとも贅沢な学びの一日となった。

弾圧されて処刑されたキリシタンの史跡だけに、遺骨も何も入っていない石棺やポツンと建てられた小さな石碑など、その歴史を知らなければ目にもとめてもらえないものばかり。

最後にまわった札の辻の処刑場（全殉教者224人）は小高い丘となっており、そこは当時江戸へ入るための検問所があり往来が激しかったため人々に見せしめとなったそうだ。現在は真横に住友不動産の立派な高層ビルが聳えていて、400年前の光景とのあまりの違いにしばし言葉をなくした。

「現在、私たちが神の証し人となるとは如何なることか？ 私たちには今殉教者として神の証人となる可能性は殆どないが、せめてその危機意識だけは共有できる。隣人愛を説く神の愛の根源は隣人への慈悲の所作にあり、私達一人一人がその愛に連なることは今でも可能である」という五野井教授の言葉が心に残った。